

B-23 おむつカバー用起毛布の洗濯による物性の
変化 (第2報)
A B S系と高級アルコール系洗剤による差に
ついて

福岡女大家政 平松 園江
上村 元子
中村学園大家政 ○八川 久代

1. カバーの通気の大切なことが理解され、布製の物の利用が次第に増している。カバー取扱上、布の物性と洗濯による物性変化を知ることは大きな課題である。そこでこれ等について調べ、カバー縫製業者の用布の選択やカバーの購入又は家庭での取扱いの基本を明らかにするため本実験を行なった。

2. 試料は毛・毛ポリエステル混・レーヨンポリプロ混及びこれにポリウレタン樹脂加工をした起毛布四種を選んだ。洗濯条件はN社280渦巻弱、洗剤D社ソフト型A B S系アルカリ合成洗剤と高級アルコール系中性洗剤を用い両者を比較した。洗剤0.2%、液温 $20^{\circ}\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、浴比1:30、洗濯時間20時間を三段階、本洗後すすぎ押しぼり自然乾燥した。防水効果は耐水度法(ショッパー)と荷重下ぬれの電氣的防水度測定、通気はフラージル型法、収縮は定法、柔軟度は織工式ソフトネステスターによりいずれも原布と対比して比較した。

3. 収縮を面積変形でみれば毛は高級アルコール系、合織混紡布はA B S系洗いが大で、後者の収縮が小、特にレーヨンポリプロ混はきわめて小である。又合織混紡布は何れの洗剤でも5時間洗濯後の収縮は小さい。全体で毛の高級アルコール系洗いが最も大で面積16%特にたて方向の長さが大きく約10%である。耐水度は洗剤差はほとんどないが、概して高級アルコール系洗がその減退が少ない。